

コロナ対策をもっと前へ 市民に希望を

3億5千万円追加求め、修正案提出

6月12日で閉会した流山市議会。コロナ対策の充実を願う市民の声を一つでも多く議会に取

医療も、教育も、経済も対策は…

「コロナ対策の目玉は「自動水栓化」!」?

「たしかに『検査はどこまでできるの?』と市民から多く聞かれる…」

小田桐市議の質疑に8日の総務委員会で、副市長が認めました。一方、

「コロナ対策の補正予算の目玉は、トイシや手洗い場の『自動水栓化』。うかは不明確。緊急対策のはずが、

「コロナ対策で初めての借金8千万円を1億6千万円も投入します。小田桐市議の追及に、「市役所1階トイレの手洗い場を自動水栓化する」

「自動水栓化する場所は、小中学校、公園、保健センター、市役所1階など。しかし、国も優先順位が低く、

市の見込み通り国費がもらえるかどうかも不明確。緊急対策としては、

修正案は否決されるも…医療供給体制の拡充、

学校人員増員、経済対策の充足は否定できず

いま「収入が減った」

「派遣切りにあった」

「納税を待って欲しい」

「従業員向けの支援は

ありませんか?」…市

役所の複数の課に「コ

ロナの悲痛な声が寄せ

られています。

実際、4・5月は、

納税相談で258件、

住宅確保の相談で10

万件、市の予備費1億5

千万円のうち64%も

使う異例事態です。生

活保護は3月に比べ1

20%増です。

小田桐市議は、補正

予算修正動議を提出し、

「小田桐市議の追及に、「市役所1階トイレの手洗い場を自動水栓化する」

「自動水栓化する場所は、小中学校、公園、保健センター、市役所1階など。しかし、国も優先順位が低く、

市の見込み通り国費がもらえるかどうかも不明確。緊急対策としては、

「不要」とは言わないが、市民の声に沿った対応を最優先すべきと指摘

しました。

副市長が答弁を回避す

る中、他4名の議員か

らの質疑に答え、「12

日、議会最終日の議決

後、すぐに深刻な現場

に資金を回せる」「予

算化されていない医療

提供体制の拡充、学校

の人員配置、経済対策

の充足を」と求めまし

た。

総務委員会では、修

正案は否決されました

が、医療提供体制の拡

充等、必要性を否定す

る議員は一人もいませ

んでした。

日本共産党 流山市議会議員

小田桐たかし



守谷県道 交番前交差点

一步前進 なお引き続き

通学路の安全対策を



←改修前
改修後↓



←改修前
改修後↓



6月11日深夜、学校本格再開を前に通学路の守谷県道交番前交差点が改修されました。一步前進です。
今後は、電柱移設、東初石3・

4丁目の横断歩道をおおたかの森方面へ移動、交番横の歩道橋支柱周辺のバリアフリー化等が残っています。引き続き、力をあわせましょう。

日本共産党を代表し、新型コロナウイルス感染症に対する関連施策として、補正予算1(3号一括して討論を行います。

未曾有の危機を引き起こした新型コロナウイルス感染症は、日本国内で初の『緊急事態宣言』の発令となり、千葉県も特別警戒地域となり、解除後の今も、様々な課題を残しました。

そこでまず、新型コロナウイルス感染症の患者さん、ご家族の皆さんにお見舞いを申し上げます。そしてその対策に最前線で懸命に従事している全ての職種、全事業所、全職員のみなさんに、この場をお借りして、心より、敬意と感謝を申し上げます。さらには、定額給付金がまだお手元に届いていない市民のみなさん。コロナ禍のもと、くらしも、仕事も、経営も本当に、本当に厳しい、苦しい中、お待たせして、本当に申し訳ありません。市職員、民間事業者の

スタッフあげて、1日でも早くお届けできるように懸命に作業中です。もうしばらく、ご

猶予、ご了承を切にお願いいたします。

さて議案の補正予算には賛成しますが、2つの問題を指摘します。

第1に、市民の声が届いていない：各施策展開に『大きな穴』が開いていることです。街を歩けば、「市内で検査はできるの?」、「市内に入院体制はあるの?」

：どこでもこの声をお聞きします。それなのに医療提供体制の予算は1470万円、介護事業所には予算はゼロです：1(3号補正、総額205億7681万円に対し0.1%以下です。これで何を守れというのでしょうか：国・県はもとより、市民生活に一番身近な市が、ほとんど無策は本当に絶望的です。とりわけ、担当課が課題にあがた「PCRの外來検査センターの構築」、「疑似」患者を含めた病床

確保」、「その病床確保のために一般疾患患者用病床の削減対応」など、医療供給体制の大幅な施策拡充を強く要求します。

また市内の教育機関における対応充足という点でもポツカリ『穴』が開いています。

現場教職員の奮闘任せで、人員を増やす準備もありません。大事なことは、教職員が個人としても組織としても、連携を図り、3密を防ぎながら、児童生徒に寄り添い、丁寧

に授業をサポートし、何よりも心の不安解消に全力を挙げるのが求められています。その業務に集中できるように、様々なサポートを充足することが市の責任であり、今後の対応を抜本的に拡充することを求めます。第2に、スピードです。他市の実例からも、臨時議会を招集しないと、この市長の責任は本当に重大です。とりわけ、経済対策では国・県の施策の遅れ、実務的な遅れも重なり、

深刻さが際立っています。

社会福祉協議会でご対応いただいている『緊急小口融資』の窓口では、「当初、必要だった印鑑登録証明証の発行を申請するお金もない」「光熱水費が停止寸前」という方もおられたとの話ですし、

廃業、失業、収入減、収入がたれた方もたくさんいます。持病もあり、コロナによるお客様の激減をキツカケに、廃業し、生活保護を申請した方、コロナで親も自宅勤務が増え収入減、自分もバイト代が激減し、食事も1日1食に減らし、

なおかつ嫌なバイトを掛け持ちして、やっとなんとか授業料を払った学生：一刻一刻、1件1件、事態は深刻です。この現実を前にすれば、国の制度とはいえ、持続化給付金や雇用調整助成金は、申請の事実と、経営の実態があれば、市が立替払いをしてでも困窮している実態を救済する取り組みが必要で

また、社協及び商工会議所にも人員を派遣し、相談体制の強化はもとより、市内に向いた声かけ、書類のお届けなど目に見える運動を思い切つて展開することも必要です。さらには、『学生応援給付金制度』は、

申請がまだ1件、見込みを含めても5件しかなく、まだ使いづらい制度です。前期授業料未納という高いハードルはやめ、コロナ禍の下で、授業料支払いに困窮している学生という目的に沿った制度へ、さらなる改善を求めます。

普段は市の力を借りずとも、懸命に暮らされている市民に、こういう時こそ、手を差し伸べ、救済する：実際、児童扶養手当や就学援助を利用している世帯への支援には喜びの声が聞かれていますから、自治体らしさ、自治体職員のやりがいの原点に立ち返った取り組みを強く、強く求めます。